

令和08年3月（第1回）岩倉市議会定例会

一般質問通告要旨

1 井上 真砂美 議員

- 1 文化（茶道・華道など）の活動維持と若い世代への普及促進について
 - (1) 史跡公園での茶会や箏の演奏、陶器の紹介等でアンケートを実施し、興味のある人を募ってはいかがか。
 - (2) 茶碗や棗（なつめ）、茶筌などの道具を紹介し、茶道具に触れる機会を作ってはいかがか。
 - (3) 若い世代に、気軽に体験活動等できる場を設けてはいかがか。
- 2 既存の地域の活動（区、老人会、子ども会など）とコミュニティスクール活動のつながりについて
 - (1) コミュニティスクールの活動はどのように進んでいるのか。
 - (2) 地域の人材をどのように発掘しているか。
 - (3) 行政主導の「未来寄合」や持続可能な町内会について学びあう意見交換会を数多く行ってきて、顔が見える関係を構築してきたが、成果をどのように捉え地域に還元しているのか。
 - (4) 支援の輪を広げ、巻き込んでいく工夫としてどのようなことがあるか。
- 3 小・中学校や高等学校での活動を市民文化祭やふれ愛まつりへの協力を結びつけてはどうか
 - (1) 小・中学校ボランティアや部活動での活動で、市の行事に結びついているものはどんなものがあるか。
 - (2) 図書館ボランティアの展示物を校内展示後、市民文化祭等で展示してはどうか。
 - (3) 岩倉駅東西地下連絡道に展示してある美術作品を展示後、市民文化祭等で展示してはどうか。
 - (4) 行事で発表することに難しさはあるか。
- 4 建設が始まった五条川小学校区統合保育園（仮称）付近の安心・安全について
 - (1) 工事中における通行車両や登下校をする児童・生徒の安全対策をどう進めるか。
- 5 わくわくする「まちづくり」の仕掛けについて
 - (1) 名神高速道路橋脚の絵画のように市内の壁や道路をアートで描いてはいかがか。
 - (2) 桜まつりで、散った桜の「花いかだ」や「花びらロード」を写真やSNSで紹介してはいかがか。

2 堀江 珠恵 議員

1 子どもの将来に向けての健康づくりについて

- (1) 健康とは肉体的・精神的・社会的にすべてが満たされた状態を指すが、学校では健康に関してどのように考えているのか。
- (2) 現在、学校ではどのような取組をしているのか。
- (3) 保健だよりは年何回発行されているのか。また、どのように工夫をしているのか。
- (4) 体を動かす機会が減ってきている中、子どもの体力低下も著しい。体育の時間はどれくらいか。
- (5) 体育の時間が楽しい、できなかったことができるようになったなどが運動習慣に繋がっていくと考えるが、どのように工夫をしているのか。
- (6) 学校では歯の健康に対しての取組をしているのか。
- (7) 給食後に歯磨きを取り入れてはどうか。
- (8) 子どもの健康面を乳幼児期からワンストップで見ていくことは大切であるため、今後養護教諭と保健師が連携・協力する必要があると考えるが、本市の見解はどうか。

2 選挙投票管理について

- (1) 期日前投票所の閉所時、投票箱の管理方法は。
- (2) 他の自治体で発生したような誤交付を防ぐ対策について。
 - ① 通常の選挙の場合と今回の選挙の場合で重複交付しないために注意していた点は。
 - ② 投票所入場券を持参しない人の本人確認方法は。
- (3) 不正行為の防止について。
 - ① 投票立会人はどのように選任されているのか。
 - ② 投票所から開票所へ投票箱を送致する際、どのような手順で行っているのか。
- (4) 持参したボールペンやマジックで記入できるか。
- (5) 投票が無効となる代表的なケースは何か。
- (6) 有権者が正しく投票するためにどのようなことを行っているのか。

3 子育て応援に関連して問う

- (1) 子育て情報をどのように周知をしているか。
- (2) いつでも・どこでも妊娠や子育ての悩みについて無料相談できるオンライン医療相談を導入してはどうか。
- (3) 兵庫県相生市のように目玉政策を抜粋し、子育て政策がわかりやすいキャッチコピーを導入しては。

3 関戸 郁文 議員

- 1 本市におけるシビックプライド醸成の取組について問う
 - (1) シビックプライドに関する現状認識について。

- ① シビックプライドの現状をどのように認識しているか。
- ② 現在の取組が、市民の愛着や誇りの醸成にどのように寄与していると評価しているか。
- (2) 若者世代・情報発信に関する課題認識について。
 - ① 中学2年生の生活実態調査の結果を踏まえ、課題を認識しているか。
 - ② 市民が自ら発信できる仕組みの必要性について、どのように認識しているか。
- (3) 自治基本条例に基づく自治の考え方について、シビックプライド条例に代わる具体的な取組はどのようなか。
- (4) 継続性と担い手づくりについて。
 - ① 取組が単発で終わらず、継続していくための仕組みが必要ではないか。
 - ② 子どもや若者が主体的に関われる仕組みを検討すべきではないか。
- (5) 市民との共創による取組について。
 - ① シビックプライドの醸成について、定期的に調査・検証していく仕組みを作るべきではないか。
 - ② 市民との共創による取組の拡充を検討すべきではないか。

2 本市の農業振興について問う

- (1) 毎年一定規模で存在している耕作放棄地の解消について。
 - ① 解消に向けてどのような取組を実施しているか。
 - ② 市で再整備した上で耕作をしたい方へ貸し出してはどうか。
 - ③ 畑に限られるが、新たに市民農園を整備してはどうか。
- (2) 担い手農家の育成・確保について、農地保全や農業を振興していく上で、担い手農家の育成・確保が重要と考えるが、育成・確保のため本市ではどのような施策を実施しているか。
- (3) 新規就農者の確保について、継続的に農業を振興していくためには新規就農者を確保していくことが必要であると考えますが、本市はどのような施策を実施しているか。
- (4) 地域計画について、令和7年3月に地域計画を策定しているが、今後この計画はどのように活用されていくのか。

3 本市のごみ減量化の取組について問う

- (1) 現在の本市のごみの排出量はどのようなか。
- (2) ごみの減量化につながる現在の取組と課題はどうか。
- (3) ごみ減量化ゲームを導入してはどうか。

4 伊藤 隆信 議員

- 1 カスタマーハラスメント防止に向けた取組の必要性について
 - (1) カスタマーハラスメントに対する現状認識について。

- ① 職員や指定管理者等が対応に苦慮するカスタマーハラスメントに該当し得る事案は、発生しているのか。
 - ② そのような事案が、職員の心理的負担や業務遂行に与える影響について、市はどのように認識しているのか。
 - ③ カスタマーハラスメントが疑われる事案について、現在どのような体制の判断基準で対応しているのか。また、職員に対して、相談・支援の体制は十分に機能しているのか。
- (2) 市民の意見表明と整理について。
- ① カスタマーハラスメントへの対応を進めるにあたり、正当な苦情や意見表明の機会をどのように整理しているのか。
 - ② 市民への分かりやすい啓発について、どのように考えているのか。
- (3) カスタマーハラスメントの未然防止について。
- ① ポスターの掲示、広報活動その他の方法により、市民及び利用者への周知及び啓発を行うべきだと思うが。
 - ② カスタマーハラスメントの未然防止及び適切な対応を図るため、必要な施策を総合的に実施すべきではないのか。
 - ③ 市は、市内事業者、指定管理者及びその他公共的役割を担う者と連携し、地域全体としてカスタマーハラスメントの防止に取り組むべきではないか。

2 快適で利便性の高い魅力あるまちづくりについて

- (1) スマートインターチェンジの整備により、本市の主要幹線道路の現状と課題について。
- ① 都市計画道路は、第3次岩倉市総合計画によって整備されたが、現在の状況を問う。
 - ② 萩原多気線の整備状況と今後を問う。
 - ③ 一宮春日井線の整備状況と今後を問う。
 - ④ 一宮小牧線の整備状況と今後を問う。
 - ⑤ 岩倉小牧線の整備状況と今後を問う。
 - ⑥ 江南岩倉線の整備状況と今後を問う。
 - ⑦ 桜通線の整備状況と今後を問う。
- (2) 道路の維持管理について。
- ① 市内の道路整備、修繕の取組は。
 - ② 道路の陥没対策と市、県、国の責任は。

3 稼ぐ自治体について

- (1) 「稼げるまちづくり」の岩倉市の現状認識は。
- (2) 人口減少により自治体が消滅と言われていたが、岩倉市の現状は。
- (3) 岩倉市の稼げるまちづくりとしての取組は。
- (4) 岩倉市の財政基盤の現状を問う。
- (5) ふるさと納税の現状と増やす対策を問う。

5 大野 慎治 議員

- 1 スポーツによるまちづくり・地域活性化について問う
 - (1) スポーツによるまちづくりの計画は。
 - (2) 石仏公園開園後のスポーツイベントの計画は。
 - (3) 中日ドラゴンズ2軍移転先の公募に参加するべきではないか。
- 2 障がい福祉サービスの65歳の壁について問う
 - (1) 介護保険と障がい者福祉の狭間で起きる問題・課題は。
 - (2) 本市はどのような対応をしているのか。
- 3 妊産婦や乳幼児専用の福祉避難所の整備状況について問う
 - (1) 岩倉市福祉避難所等運営マニュアルでの取組は。
 - (2) 妊産婦や乳幼児専用の避難所の整備状況は。
- 4 投票制度について問う
 - (1) 在外選挙制度の投票者数の推移と課題は。
 - (2) 名簿登録地以外の市区町村の選挙管理委員会における不在者投票の投票者数の推移と課題は。
 - (3) 指定病院等における不在者投票の投票者数の推移と課題は。
 - (4) 郵便等による不在者投票の投票者数の推移と課題は。
 - (5) 期日前投票・投票当日の立会人の確保についての課題は。

6 片岡 健一郎 議員

- 1 空き家除却後の土地活用促進による定住と市街地維持について
 - (1) 市内における空き家戸数及び管理不全空き家の把握状況について問う。
 - (2) 空き家除却補助金制度の目的、内容及び近年の利用実績はどのようなか。
 - (3) 空き家除却補助金制度を利用し空き家を除却後、更地となった土地の未利用状況の実態について把握はできているのか。
 - (4) 除却後に土地売却又は住宅の建設を行った場合の補助金加算制度の導入について当局の見解を問う。
 - (5) 空き家対策を土地流通及び定住促進につなげる今後の考え方はどのようなか。
- 2 都市計画マスタープランにおける産業系拡大検討ゾーンについて
 - (1) 岩倉市として産業系拡大検討ゾーンをどのように想定しているのか。
 - (2) 産業系拡大検討ゾーンを推進するにあたり岩倉市の役割とは。

- (3) 産業系拡大検討ゾーン内において市内小規模事業所が進出できるような比較的規模の小さい区画の開発を岩倉市が促すことは可能か。

3 岩倉市初のオリンピックメダリスト誕生について

- (1) ミラノ・コルティナ2026オリンピックに岩倉市出身として初めて長谷川帝勝選手が出場したが、市としても応援の機運を高めようと様々な取組を行ったが市民の反応はどうだったか。
- (2) 銀メダルを獲得できたことは大変喜ばしいことであり、市民全体で祝福してはどうかと考える。長谷川選手を招き市内パレードなど検討されてはどうか。

7 谷平 敬子 議員

1 英語教育のさらなる充実について

- (1) 本市の小・中学校では、英語力を高めるために、どのような取組がなされているのか。
- (2) ALT（外国語指導助手）の人数、配置校、勤務体制は、どのようか。また、ALTの人数を増やす考えはあるか。
- (3) 本市においては、小学校の低学年からどのような英語活動を行っているのか。
- (4) 貸与されているタブレットは、どのように英語学習に利用されているのか。
- (5) 授業以外の学校生活で英語を「使う機会」の創出は、どのように行われているのか。
- (6) 小学校卒業時、中学校卒業時に、どの程度の英語力を目標にしているか。また、英検の受験料補助はできないか。

2 電話リレーサービス及び文字表示電話サービス「ヨメテル」の周知と支援について

- (1) 公共インフラとして制度化された電話リレーサービス及び2025年1月に始まった新たなサービス「ヨメテル」について、どのように捉えているのか。
- (2) 両サービスの制度・機能について、市民及び事業者に周知・広報を行う必要があると考えるが、見解を伺う。
- (3) 障がい者支援にとどまらず、事業者や行政窓口における理解促進や、認知度向上に向けた周知・啓発についてどのように取り組むか。
- (4) 両サービスを利用するために登録手続きの支援はできないか。
- (5) 利用にかかる料金は、当事者負担となっている。経済的負担の軽減に対する支援はできないか。

8 木村 冬樹 議員

1 突然の総選挙への対応はどうであったか

- (1) 選挙権の保障は十分できていたのか。また、さらなる拡充を求める。
- (2) 選挙公報の配布に問題はなかったか。

- (3) 投票所及び投票区域の改善は進んだのか。
- 2 どうすれば外国人住民とともに地域コミュニティをつくっていただけるのか
 - (1) 外国人住民の直近の動向はどうか。
 - (2) 日本語教室の取組の現状はどうか。今後の発展方向をどう考えているか。
 - (3) 地域のイベントや防災訓練などへの外国人住民の参加状況はどうか。今後どうやって参加を増やしていくか。
- 3 インクルーシブ保育のさらなる推進を
 - (1) 本市の保育現場におけるインクルーシブ保育の現状はどうか。
 - (2) 名古屋市の民間保育施設への支援児保育補助制度をどう考えるか。
 - (3) 支援が必要な子どもに関し、保育を必要とする要件、保護者の就労要件を緩和すべきではないか。
- 4 医療・介護の負担増・給付抑制からの拡充への転換を
 - (1) 国民健康保険及び後期高齢者医療制度における資格確認書の交付を、今後も継続して申請なしで受けられるように、国及び愛知県後期高齢者医療広域連合へ意見していくべきではないか。
 - (2) 健康保険証廃止後、国民健康保険税滞納世帯への対応はどう変わったのか。
 - (3) 高すぎる国民健康保険税の負担軽減策を実施できないか。
 - (4) 第10期高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画ではどのようなサービスの拡充が必要と考えているか。認知症対応サービスの拡充が必要ではないか。
 - (5) 認知症施策推進計画策定にあたって、認知症何でも相談窓口の設置、もの忘れ検診の実施、本人・家族の悩みを共有できる交流会の実施を求める。
 - (6) 医療・介護の負担増・給付抑制をやめ、拡充するよう、国及び愛知県へ意見していくべきではないか。

9 水野 忠三 議員

- 1 災害時以外の平時における本市と自衛隊等との協力関係について問う
 - (1) 本市の自衛官募集事務にかかる募集対象者情報の提供について、現状及び課題は。
 - (2) 令和5年度から情報提供にあたっては、募集案内等を郵送するために使用する宛名シールを作成して自衛隊へ提供しているが、データ等での提供はできないか。
 - (3) 本市と自衛隊等とが平時から協力・連携等をするメリット等について見解は。
 - (4) 本市と自衛隊の愛知地方協力本部（地本）や例えば、守山駐屯地の第10師団や春日井駐屯地の部隊などと交流や連携をする機会等について、現状及び課題は。
 - (5) 日常的に交流があれば、いざ災害が起きた際に、「信頼関係」等があるため、曖昧な状況下でも迅速な支援要請・受諾等が可能になると考えるがどうか。
 - (6) 関連して、自衛隊法第83条「都道府県知事その他政令で定める者」の「その他政令で定める者」の中に市町村長が入らない理由等についての見解は。

- (7) まずは、市のイベントや防災訓練などに、自衛隊の愛知地方協力本部（地本）を通じて、小規模な「体験型ブース」を定例化することから始めるのが、コストもかからず最も現実的で効果的な一歩となると思うが、現状及び見解は。
- (8) 「日常」から始める防災力の強化として、将来的に、自衛隊員が教える、岩倉市民向けの「自衛隊式」防災ワークショップの開催や市職員へのロジスティクス研修等は検討できないか。
- (9) イベント・文化交流を通じた顔の見える関係づくりとして、例えば、自衛隊の音楽隊による演奏会や、広報ブースの設置、特殊車両（軽装甲機動車など）の展示など、日常的に自衛隊員と市民が接触する機会を設け、併せて、心理的な安心感・信頼感なども醸成すべきと考えるが見解は。
- (10) 市内の小・中学校で行われる職業体験・キャリア教育の一環として、自衛官を講師として招き、単なる職業紹介だけでなく、規律やチームワーク、国際貢献の経験などを語ってもらうことで、青少年の健全育成に寄与すべきと考えるが見解は。
- (11) 災害時以外でも、本市と自衛隊等とが連携できる分野は多数あると考えるが、将来的に、制度設計や覚書（MOU）締結なども含めて、実務的な展開等ができないか。

2 第5次岩倉市総合計画「中間見直し」後の「今後」について問う

- (1) 第5次岩倉市総合計画の「中間見直し」が行われたが、全体的な認識及び見解は。
- (2) 次期(第6次)の総合計画策定等も見据えて、総合計画の評価指標（KPI）について、公開方法・評価周期・報告手法を今後、どのように改善する予定か。また、市民が進捗を把握しやすい形にする具体策は。
- (3) 「第5次岩倉市総合計画中間見直し案のパブリックコメント」など、中間見直しにおいて寄せられた市民からの意見数が比較的限られているようにも思われるが、見解は。また、今後、より多くの市民の声を反映できる仕組み、例えば、年齢・世代別ワークショップ等の導入なども検討すべきと考えるがどうか。
- (4) 総合計画における評価指標等を年次で統計などと対比して一般に公開すべきと考えるが見解は。
- (5) 次期(第6次)の総合計画策定等も見据えつつ、現在の財政状況において、税制等の公平性と市民負担のバランスをどのように確保する方針か。
- (6) 予算配分における費用対効果の評価制度の導入等について、現状及び将来的な課題等は。
- (7) 行政運営の透明性向上策を検討しているか。また、(検討している場合は、その)具体策などの方向性は。
- (8) 住民参加制度の拡大について、若年層・中間層・高齢者層へのアプローチ施策をさらに進めるべきと考えるが見解は。
- (9) 本市における外国人住民支援策の現状と今後の方針は。
- (10) 本市はコンパクトシティーであるからこそ、「迅速な決断」、「顔の見える関係」、「成果が実感できる行政」等が可能な自治体であると考えているが、次の時代への再設計に向けての決意を問う。

10 日比野 走 議員

1 「Let's Go!Me!ハント@五条川」について

- (1) 児童・生徒への周知はどのようにされたか。
- (2) 北名古屋市からの反応はどのように聞いているか。
- (3) クリーンチェックとの棲み分けはどのようにになっているか。
- (4) 岩倉市環境基本計画への関連はどのようなものになっていくのか。
- (5) ゴミの拾える範囲を川沿い、河川内にも拡大していくためのルール策定や整備を行っていくべきではないか。

2 自殺対策計画について

- (1) 生涯学習の推進における自殺対策との関係性は。
- (2) 孤立を防ぐための周辺地域とのつながりを重視した施策は織り込まれているか。
- (3) 薬物乱用防止に向けた教育に、依存症患者の回復支援の計画は織り込まれているか。
- (4) 自殺対策の一環として、児童・生徒に対しての早生まれの理解促進を検討してみてもは。